協働事業提案制度の審査について
答申書

平成３０年１１月２７日

相模原市市民協働推進審議会

目　　次

１．平成３０年度新規協働事業提案の審査結果について・・・・・・　　１

２．平成３０年度継続協働事業の審査結果について・・・・・・・　　３

１．平３０年度新規協働事業提案の審査結果について

（１）審査結果

№	事業の名称	事業化について	点数
１	誰もが使えるミニラボを拠点とした地域産業の新たな担い手の育成支援事業	事業内容を修正（精査）することにより協働事業としての実施が可能なものと考える	89／150
２	若年層に向けた金融教育支援事業（高校生にも分かる契約、金融と奨学金の話）	協働事業として実施することがふさわしい提案であると考える	123／150
３	子育てをする保護者および保育者を一人で悩ませない食でつながる居場所づくり事業	事業内容を修正（精査）することにより協働事業としての実施が可能なものと考える	106／150

（2） 事業化にあたっての意見

Ｎｏ	事業の名称	提案団体及び担当課
1	誰もが使えるミニラボを拠点とした地域産業の新たな担い手の育成支援事業	・特定非営利活動法人 デジタルコンテンツ研究会 ・産業政策課

【審査結果】
事業内容を修正（精査）することにより協働事業としての実施が可能なものと考える

【意見】
　起業に向けた第一歩を支援するうえで、団体が今までの活動で培った障害者等への支援の実績を生かし、１年目は主たる対象者を障害者や社会的弱者に対する支援を中心にするなどの精査を行い、事業を実施していただきたい。また、行政においては、中小企業庁で実施している専門家派遣の支援策を活用するなど、団体が活動を継続できるよう、別の枠組みで経費の自己負担額を圧縮する方法などを採り入れながら、事業を進めていただきたい。

Ｎｏ	事業の名称	提案団体及び担当課
2	若年層に向けた金融教育支援事業（高校生にも分かる契約、金融と奨学金の話）	・神奈川県ファイナンシャル プランナーズ協同組合 ・消費生活総合センター ・こども・若者支援課

【審査結果】
協働事業として実施することがふさわしい提案であると考える

【意見】
　ライフプランや契約に係る権利や責任など、金融知識の欠如により巻き込まれるトラブルを事前に防ぐために金融教育を行うことは重要なことであり、ファイナンシャルプランナーの持つ強みを活かした事業であると考える。
　団体の持つ強みを活かし、魅力ある教育プログラムを作っていただき、協働事業提案制度終了後を見据えて、子ども達に分かりやすいコンテンツを開発しながら、この事業を進めていただきたい。

Ｎｏ	事業の名称	提案団体及び担当課
3	子育てをする保護者および保育者を一人で悩ませない食でつながる居場所づくり事業	・ＮＰＯ法人 フーズマイルぐりぐら ・こども家庭課 ・各子育て支援センター

【審査結果】
事業内容を修正（精査）することにより協働事業としての実施が可能なものと考える

【意見】
　子育てに関して悩みをもつ保護者が孤立しないよう相談できる場を作ることは重要なことであると考える。
　今回の事業の実現性を高め、今後の団体の発展につなげるためにも、対象人数の根拠を示した上でイベントの回数や人数を見直し、イベントの規模を小さくする等して、体力に見合った事業展開となるよう計画を見直し実施していただきたい。また、協働事業提案制度終了後の更なる展開を見据えたうえでは、計画的な事業プランの立案など、団体運営に関して専門家からのアドバイスを受けながら実施していただきたい。

２．平成３０年度継続協働事業の審査結果について

(1) 審査結果

№	事業の名称	事業開始年度	次年度継続希望	継続について	点数
1	津久井里山体験ツアー運営による地域活性化事業	30 年度	有	次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる	111/125
2【行】	高尾山からの相模湖・藤野方面へのハイカー誘客促進事業	30 年度	有	次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる	86/125
3	市民講座による生涯学習の推進事業	30 年度	有	次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる	100/125
4	「木もれびの森」案内看板及びマップ製作事業	30 年度	有	次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる	104/125
5	WEB を活用した野菜販売促進プロジェクト事業	29 年度	有	次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる	102/125
6	津久井産材製キエーロ（木製の生ごみ処理器）の開発・普及モデル事業	29 年度	有	次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる	87/125
7	森林活用モデル検討事業	29 年度	有	次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる	101/125
8	自動車ドライバーを含む自転車利用者向け交通安全講習会事業	29 年度	有	次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる	101/125

※　№欄の【行】は行政提案型協働事業、無印は市民提案型事業を示す。

(２)次年度継続及び進捗状況等に関する意見

Ｎｏ	事業の名称	実施団体及び事業担当課
１	津久井里山体験ツアー運営による地域活性化事業	・一般社団法人　藤野観光協会 ・緑区役所区政策課

◆次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。

【意見】
　里山体験ツアーの参加者は予想を大きく上回っており、着実に事業を実施していることについて評価したい。２年目についても津久井地域に広げていくための取組を継続していただきたい。
　なお、人的な資源を確保する策として、ソーシャルビジネスでの起業を目指そうとしている若者を取り込み、里山体験ツアーの運営に関わることで学びの場を提供するようなことも出来るのではないかと考える。団体として、人的資源の確保に向けた取組の参考としていただきたい。

Ｎｏ	事業の名称	実施団体及び事業担当課
２ 【行】	高尾山からの相模湖・藤野方面へのハイカー誘客促進事業	・相模湖商工会 ・商業観光課

◆次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。

【意見】
　道標を整備することにより、地域に人を集め、観光振興や地元商店の活性化に繋げていけるように事業を実施していくことが重要な点であると考える。
　ハイキングガイドの養成にあたっては、道案内だけではなく、地域の観光案内や商店の紹介など、ハイカーを誘客することによる地域のメリットを取り入れた取組としていただきたい。また、行政提案のため、行政側のスタンスとして道標整備の先の展開を踏まえて事業を実施することを意識し、出来上がった道標の写真などとあわせて、次年度の報告時に提示をしていただきたい。

Ｎｏ	事業の名称	実施団体及び事業担当課
３	市民講座による生涯学習の推進事業	・市民講座　まなびのライブ塾 ・生涯学習センター

◆次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。

【意見】
　新たなサークル活動を生み出していく新しい生涯学習の形であり、行政のみの取組ではなく、市民との協働で実施することにより、自立したサークル活動に繋げることができる事業であると考える。
　２年目の事業実施にあたっては、自立的なサークルを作っていくことが重要な視点であると考えるため、常にその意識を持ってサークル化の支援を行う仕組みづくりに取り組んでいただくとともに、新しいサークルの運営支援の点については、市民活動サポートセンターなど、団体運営の支援を行う既存の事業と連携し、活用していただきたい。
　また、次年度の報告では、学びの場の様子やどのようなサークルが出来たのか確認できるよう、報告の中に組み込んでいただきたい。

Ｎｏ	事業の名称	実施団体及び事業担当課
4	「木もれびの森」案内看板及びマップ製作事業	・特定非営利活動法人 相模原こもれび ・水みどり環境課

◆次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。

【意見】
　団体と行政が適切な役割分担のもと、良好な関係を築き事業を実施していることが伺え、評価できる。
　２年目の事業実施にあたっては、作成するマップを有効に利用できるよう、QR コードの活用により現在地が把握できるようにする等、市民の利便性の向上を図るとともに、女子美術大学の学生と連携し、見て楽しい要素を加えたマップを作成していただくことを期待している。

Ｎｏ	事業の名称	実施団体及び事業担当課
5	WEB を活用した野菜販売促進プロジェクト事業	・ビオ市/野菜市事務局 ・農政課 ・藤野まちづくりセンター

◆次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。

【意見】
　地域を巻き込み、人と人との繋がりを大事にして、事業を実施していることが伺えた。昨年度の審査員意見を踏まえた事業計画を立て実施している点についても評価できる。
　３年目については、藤野らしいライフスタイルを発信することで新規就農者の誘致を行うなど、安定した生産量の確保に向けた取組にも力を入れ、実施していただきたい。

Ｎｏ	事業の名称	実施団体及び事業担当課
6	津久井産材製キエーロ（木製の生ごみ処理器）の開発・普及モデル事業	・津久井商工会 ・津久井地域経済課

◆次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。

【意見】
　津久井産材の利用拡大とごみの減量を同時に実現していくことがこの事業を実施していく上で重要な点であると考える。
　３年目については、これまでのモニタリング調査の結果をもとに、津久井産材を使用したキエーロを普及していく上でのターゲットを明確にし、ユーザーがどのような使い方をするとメリットがあるのかという仮説を立て、モニタリングやアンケート調査に取り組んでほしい。また、ごみの減量という目標に対して、キエーロがどの程度寄与できるのかという点について、ごみの減量に関係する担当部署とも連携し、取り組んでいただきたい。

Ｎｏ	事業の名称	実施団体及び事業担当課
7	森林活用モデル検討事業	・特定非営利活動法人　自遊クラブ ・津久井地域経済課

◆次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。

【意見】

企業へのヒアリング実施など、着実に事業を進めており、イベントの開催においても、反省点を生かして次のイベントに繋げている点を評価できる。

３年目については、地域にあるレジャー施設との連携を継続し、イベントの運営について学ぶとともに、楽しみながら学ぶことが出来る場として企業への働きかけを行い、CSR や ISO への転用などに繋げていけるよう、取組を進めていただきたい。

また、今後もこの取組を継続していくためにも、若い人たちを巻き込み、後継者を養成していくことにも団体として力を入れていただきたい。

Ｎｏ	事業の名称	実施団体及び事業担当課
8	自動車ドライバーを含む自転車利用者向け交通安全講習会事業	・株式会社セルクル ・交通・地域安全課

◆次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。

【意見】

事業を通じて把握した課題をバス会社や警察署にアプローチして改善していくなど、これまでの取組は成果をあげていると考える。

３年目については、市内の各地域に広げていけるよう、行政側からも更なる後押しをしていただくとともに、協働事業提案制度終了後に向け、今回の事業で明らかになった自転車事故における地域の課題への取組や講習を受けた地域の人材活用など、成果を生かした事業に繋げていけるよう、検討を行っていただきたい。